

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 竹内 久美子

〔題名〕

新生児期に先天異常が疑われ診断が確定するまでの時期の親子関係形成ケアに関する研究

〔要旨〕

新生児期に先天異常が疑われ診断が確定するまでの時期に、児と家族に対して必要な親子関係形成ケアを明らかにすることを目的とした。第一段階として、NICU看護師に対し、この時期の親子関係形成ケアの実践状況、ケア実践で大切にしていること、困難感について調査を行った。この結果をもとに第二段階として、看護ケアに対して母親はどのような経験をしているか、看護者に望むケアを調査し、看護の現状、母親の経験・ニーズから親子関係形成ケアを検討した。

その結果、看護師は先天異常が疑われる際の親子関係形成ケアを意識して実践しており、愛着形成や精神的支援は9割以上が実践していた。ケアにおいて、母親の精神的ケア、愛着促進ケア、先天異常にとらわれずにケアをすること、情報提供、看護体制づくりを大切にしていたが、診断確定しない時期に育児支援を進めなくてはならない状況で、親に対する精神的支援、専門職者として求められる知識、プライバシーの問題等に困難を抱いていた。

一方、母親は約8割が看護師の変わらない態度を肯定的に捉えていたが、それ以外のケアを肯定的に捉えていた母親は半数に至らなかった。母親は精神面を考えた支援、前向きになれる育児支援、適切な情報提供、入院環境への配慮を望んでいた。

看護師の実践と母親の捉え方には差があり、この時期に母親の期待する十分なケアが実践できていない現状が伺えた。看護師は診断を待つ時期の母親の揺れる気持ちに共感し寄り添うこと、児を大切にしている看護姿勢を示すこと、先天異常があっても育つ児の看護経験を通して「元気に育つ」ことを母親に伝える必要がある。さらに部屋の調整や保健指導で親の希望を確認することが求められる。この時期の看護では児の個別性、親の心身状態や家族の状況に応じた繊細なケアが求められるため、看護者の負担も大きい。看護体制やチーム医療など広い視点からの看護の質の向上が求められる。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1424 号	氏 名	竹 内 久 美 子
論文審査担当者	主査教授	田 中 満 由 美	
	副査教授	山 勢 博 彰	
	副査教授	村 上 京 子	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
新生児期に先天異常が疑われ診断が確定するまでの時期の親子関係形成ケアに関する研究			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
ダウン症の診断確定を待つ新生児期の親子関係形成ケアに対する母親の認識			
掲載雑誌名 山口医学			
第 64 巻 第 2 号 P.87 ~99 (平成 27 年 5 月 掲載・掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
本研究の目的は「新生児期に先天異常が疑われ診断確定まで」の時期に児と家族、特に母親に対して必要な親子関係形成ケアを明らかにすることである。			
一段階の調査として NICU 看護師に対し、この時期の親子関係形成ケアの実施に対する認識、看護ケアで大切にしていること・困難なことについて量的研究による調査を行った。			
二段階の調査としてこの結果をもとに母親用の質問紙を作成し、親子関係形成ケアを受けた母親の経験、およびこの時期に望む看護ケアについて、ダウン症児を持つ母親に量的研究による調査を実施した。			
さらに看護師と母親の認識を比較することにより、看護師は母親の望むケアが実践できていない状況が伺えた。			
看護師は診断を待つ時期の母親の揺れる気持ちに共感し寄り添うこと、児を大切にケアする看護姿勢を示すこと、母親が必要とする情報が適切な時期に得られるような支援、環境の調整、看護者間、および多職種とのチーム医療の実践が必要であることが示唆された。			
本研究によって、これまで妊娠中に胎児異常が判明したケースに対する看護、先天異常児の親の受容に関するプロセス、及び看護に関する研究はあるものの、「新生児期に先天異常が疑われ、遺伝学的検査を受けて診断確定まで」の時期に、新生児期早期に母子の愛着形成を含めた親子関係をはかる看護について、また母親の認識や看護ケアに対するニーズにしたものはない。そこに着目し、研究を行うことによって、今後の継続教育や遺伝看護の教育への適応可能性に関する示唆が得られた。			
また、遺伝看護の家族看護の発展に貢献するものと思われる。よって、博士後期課程の学位論文として価値あるものと認めた。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。